

まれびとの國

能登立国 1300年

▼▼ 30

「ニースみたい」

穏やかな七尾西湾を眺め、こ
うつぶやいたのは、俳優仲代達
矢さんの亡き妻、演出家の宮崎
恭子さんだった。ルールで決め
られたわけでもないのに、白壁
に黒瓦で統一された家並みに
「文化の薫りがする」と、仲代
さんも見とれた。

この能登旅行がきっかけとな
り、仲代さんが主宰する無名塾
は旧中島町で合宿を始め、やが
て全国屈指の演劇専用ホール
「能登演劇堂」の開館へとつな
がる。能登に演劇の種をまいた
名優の手を最初に引いたのは、
海に開かれた半島の景色だっ
た。

落語家の桂文珍さんは、旧門
前町の高台から望む夕日の美し

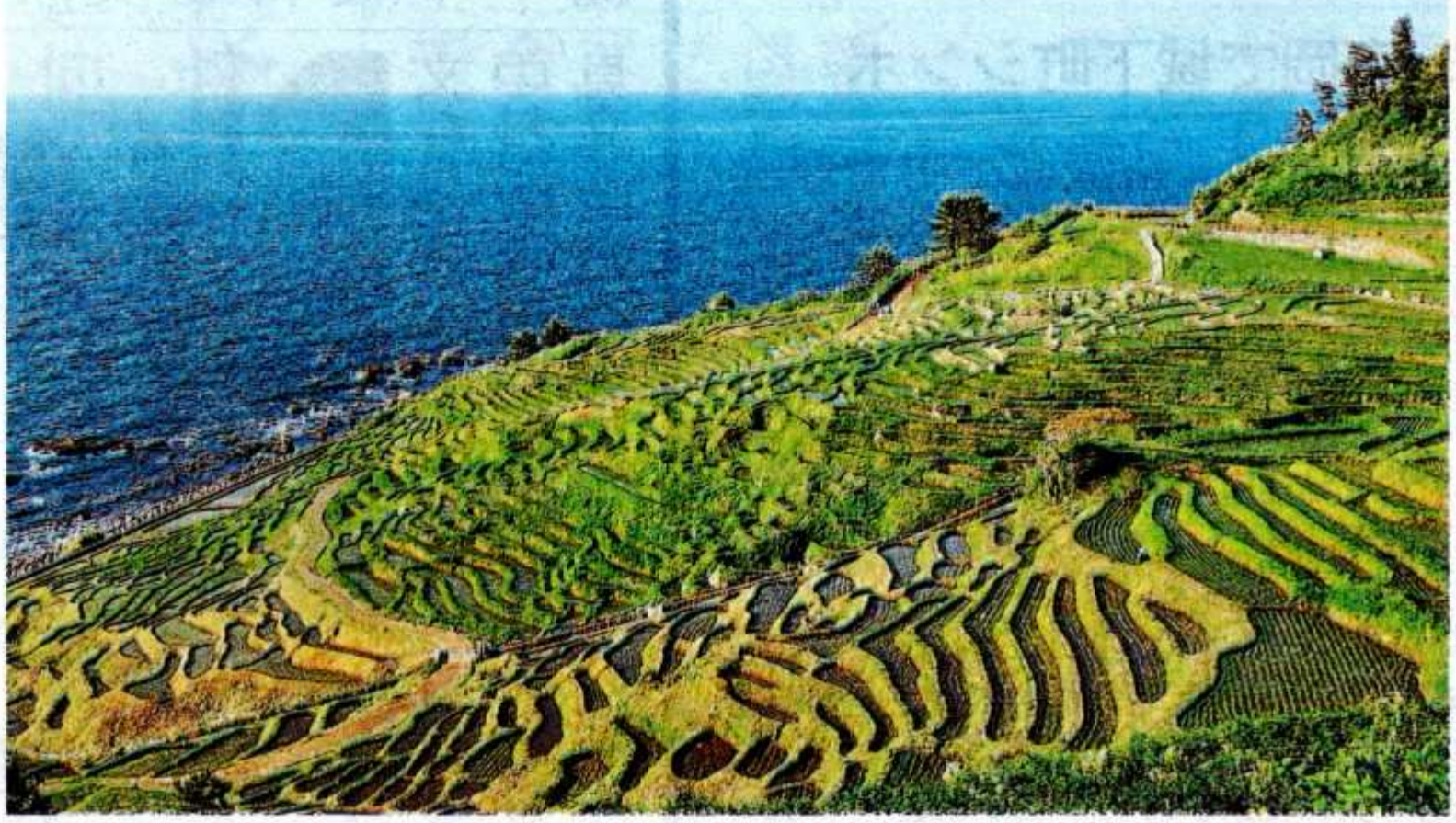
取材班から ①

さに圧倒されて別荘を建て、以
来、能登の人々との交流を続け
る。「サンフランシスコに似て
いる」と言ったのは、日本テニ
スのトップジュニアコーチ、渡
部健介さん。七尾市和倉温泉の
コートを拠点に世界を目指すテ
ニスアカデミーを始めた。

日本の原風景

連載では、1300年前の古
代から現代まで、能登にやって
きた客人「まれびと」に焦点を
あて、彼らを引き寄せる能登の
底力を探ってきた。彼らがまず

言うのは、日本の原風景との出
会いだ。しかし、それは単に海
と山があるということではな
い。手つかずの大自然とはひと
味違うぬくもりにあふれた里山
里海は、能登の人々の敬けんな
営みが根底にある。



千枚田や揚げ浜式製塩、
各地の炭焼き、農耕儀礼「あ
えのこと」、キリコ祭りな
どには、厳しくも優しい自
然に対する人々の敬意と感
謝の念がにじむ。

民俗学研究者、西山郷史
さん―珠洲市―は能登の個
性をこう説明する。「能登
の人々は野菜も魚もとれる
地に対する報謝の中で生き
ている。だから、みんな

多くの「まれびと」を
魅了する国名勝「白米
千枚田」 ―輪島市

営みの根底に敬意、感謝

助け合い、外からの人が来ても
一緒に手を握っていいこうとす
る」。加賀とも、越中とも違う。
「能登はやさしや土までも」と
うたわれる土地柄はこの精神か
ら生まれているという指摘であ
る。

この地のために

輪島市門前町の總持寺祖院で
修業を積み7年になるドイツ人
僧侶のゲッペルト昭元さんは、
檀家が減る中でも宗派を越えて
行事を手伝う地域住民に出会っ
た感激を語った。「能登はやさ
しや」の気質は、「まれびと」
を包み、この地のために、とい
う彼らの熱意を引き出す。

都市部から訪れた人は、優し
い景観や素朴な人々の営みに癒
やされる。北陸新幹線や能登空
港を使えば、半日もかからずた
どり着く地に別世界があること
は、もっと知られていい。連載
を通じて、実感した能登の地方
である。
(森田奈々)

「やさしや」の地方実感